

10月25日発行

発行所 社団法人全日本トラック協会
〒163-1519 東京都新宿区西新宿1-6-1
新宿エルタワー19階
☎(03)5323-7242(広報部)
http://www.jta.or.jp

広報とらつく

第42回
全国トラックドライバー・コンテスト

号外

第42回 全国トラックドライバー・コンテスト



表彰式で祝福される各部門優勝者(左から土井さん、齋藤さん、上川さん、土屋さん)

各賞受賞者		
内閣総理大臣賞	齋藤 隆	11トン部門
警察庁長官賞・ 全日本トラック協会会長賞 (連名)	土井 尚登	4トン部門
	齋藤 隆	11トン部門
	上川 修之	トレーラ部門
	土屋 侑子	女性部門
全日本トラック協会会長賞	各部門第1位~5位	
国土交通大臣賞(中小企業最高得点者)		
鈴木 壯	岡田運輸(株)東北一関営業所	
国土交通大臣賞(事業所表彰)		
4トン部門	関西日立物流サービス(株)本社営業所	
11トン部門	日本通運(株)東北警送支店	
トレーラ部門	日本通運(株)都城支店	
女性部門	佐川急便(株)宇部店	
全日本トラック協会会長特別賞		
鈴木 壯	岡田運輸(株)東北一関営業所	
二田 和文	日本通運(株)鹿児島支店鹿児島総合物流事業所	
全日本トラック協会会長賞詞		
梅本 敦史	日本通運(株)名古屋北支店	

全国トラックドライバー・コンテストは、交通安全防止とトラックドライバーに誇りと社会的責任の自覚を促すことを目的に、昭和44年から毎年開催され、今年で42回目を迎えた。最高得点者には、栄えある内閣総理大臣賞が贈られるなど、トラック運送業界で最も権威あるドライバーコンテストとされている。

コンテストは10月23~25日にかけて開催され、茨城・ひたちなか市の自動車安全運転センター安全運転中央研修所で学科競技および整備点検競技、運転技能競技が行われ、25日には、東京・新宿の京王プラザホテルで行われた表彰式で、各賞の受賞者が発表された。

今大会には地方大会を勝ち抜いた142人の精鋭が

中小企業最高得点は岡田運輸(株)鈴木選手

全日本トラック協会は10月23日から25日までの3日間、「第42回全国トラックドライバー・コンテスト」を開催。日本通運(株)東北警送支店の齋藤隆さん(さいとう・たかし、11ト部門)がプロトラックドライバー日本一として、内閣総理大臣賞に輝いた。また、中小企業所属の総合得点第1位の選手に贈られる国土交通大臣賞は、岡田運輸(株)東北一関営業所の鈴木壯さん(すぎ・つよし、11ト部門)が受賞した。なお、部門別優勝者は、4ト部門土井尚登(どい・なおと)さん、トレーラ部門上川修之(うえかわ・のぶゆき)さん、女性部門土屋侑子(つちや・ゆうこ)さんとなった。

日本通運(株)東北警送支店 齋藤隆選手

内閣総理大臣賞

後援：内閣府、国土交通省、警察庁
自動車安全運転センター
財団法人交通安全協会
財団法人日本自動車整備振興会連合会
協賛：株式会社ブリヂストン
協力：日野自動車株式会社
いすゞ自動車株式会社
マツダ株式会社
三菱ふそうトラック・バス株式会社
日本フルハーブ株式会社
日産自動車株式会社
トヨタ自動車株式会社
UDトラック株式会社(ABC順)

出場し、うち4名が最高得点995点をマークするなど、例年になくハイレベルの接戦が繰り広げられた。最終的に、コンテスト実施要綱の年齢差等により、11ト部門の齋藤隆さん(福島県代表・日本通運(株)東北警送支店)が内閣総理大臣賞に輝き、惜しくも総合第2位となった11ト部門の梅本敦史(うめもと・あつし)さん(愛知県代表・日本通運(株)名古屋北支店)には、全日本トラック協会会長賞詞が贈られた。

また、中小企業のなかで最高得点をマークした選手に贈られる国土交通大臣賞は、11ト部門の鈴木壯さん(岩手県代表・岡田運輸(株)東北一関営業所)が受賞した。

なお、「全日本トラック協会会長特別賞」は、11ト部門の鈴木壯さん(同)、11ト部門の二田和文(にた・かずふみ)さん(鹿児島県代表・日本通運(株)鹿児島支店鹿児島総合物流事業所)がそれぞれ受賞した。

部門	順位	氏名	年齢	都道府県	所属事業所	総合得点
4トン	1	土井 尚登	35	大阪府	関西日立物流サービス(株)本社営業所	995
	2	石井 佐京	26	三重県	日本通運(株)津支店	995
	3	中村 龍也	40	広島県	日本通運(株)中国警送支店広島警送事業所	990
	4	小西 希幸	43	兵庫県	日本通運(株)神戸支店豊岡支店	985
	5	小田中 章	35	岩手県	日本通運(株)東北警送支店盛岡警送事業所	975
11トン	1	齋藤 隆	30	福島県	日本通運(株)東北警送支店	995
	2	梅本 敦史	30	愛知県	日本通運(株)名古屋北支店	995
	3	西原 裕	40	福岡県	佐川急便(株)九州路線営業所	990
	4	若林 康之	38	千葉県	日本通運(株)千葉南支店	990
	5	長尾 幸治	39	和歌山県	日本通運(株)和歌山支店紀南営業センター	988

部門	順位	氏名	年齢	都道府県	所属事業所	総合得点
トレーラ	1	上川 修之	37	宮崎県	日本通運(株)都城支店	990
	2	齋藤 克治	41	新潟県	日本通運(株)新潟統括支店新発田支店	985
	3	家田 有善	38	愛知県	日通小牧運輸(株)本社営業所	983
	4	邦 幸治	34	岐阜県	日本通運(株)岐阜支店コンテナ輸送センター	983
	5	栗原 利勝	34	北海道	日本通運(株)帯広支店	980
女性	1	土屋 侑子	23	山口県	佐川急便(株)宇部店	968
	2	菊池由果里	38	長野県	佐川急便(株)長野支店	964
	3	豊田 恵美	30	東京都	日本通運(株)東京航空支店江東オペレーション課	963
	4	大屋 かな	28	愛知県	佐川急便(株)豊川支店	963
	5	藤原 高子	31	大分県	佐川急便(株)中津支店	950

各部門入賞者

第42回 全国トラックドライバー・コンテスト

総理大臣賞 目指して142人がチャレンジ!

第1日目
10月23日(土曜日)

▼開会式から熱戦がスタート



▼整備点検



▲選手宣誓は徳島県代表の村上 智美さん

学科は450点

学科競技は法規200点、構造機能100点、運転常識150点の450点満点で競います。試験時間は60分です。学科は点数配分が最も高く、勝敗を左右することも。例年難易度の高い問題も含まれます。例えば今年は「停止表示器材は、夜間200メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものでなければならない」。答えは○×形式ですが、みなさんわかりましたか?



▲学科競技

整備点検は200点

整備点検競技は、日常点検を基本として点検箇所・点検内容等について採点され、満点は200点。競技時間は4トン、女性部門は7分、そして11トン、トレーラ部門は8分の限られた時間です。日常点検は頂点をめざすプロドライバーとして基本中の基本。素早く無駄のない動きの中で、ランプの球切れや、タイヤ空気圧の不足など、不良箇所を的確に見つける選手の技に脱帽です。

2日間を通して熱い声援



▲全国から集まったたくさんの応援者が選手に熱い声援を送る



▲PRにかけたTBSラジオカー

第2日目
10月24日(日曜日)

▶競技開始前
コースの下見



▲高速周回路



▲模擬市街路、幹線路、高速周回路をコース走行した後
に課題走行へ

▼あい路の通過



▶運転スタート



▼スラローム走行



運転は350点

運転競技は350点満点です。安全無事故運転を主体に、交通法規の順守と基本操作技術、運転態度を審査します。各部門とも7分間の約4キロのコース走行と3分間の課題走行に挑みます。とくに、多くのギャラリーを前にしての「あい路の通過」「スラローム走行」「S字後退からの車庫入れ」は各選手の技術の見せどころでコンテストのハイライトです。なお、省燃費に配慮したエコドライブも審査の対象となります。

▶S字後退から車庫入れ



- 女性部門**
- 稲垣守江(北海道、川村知子(宮城県)、関下由香理(埼玉県)、門倉淑枝(千葉県、豊田恵美(東京都)、菊田美幸(神奈川県、菊池由果里(長野県)、平井久美子(富山県)、中村理恵(静岡県)、大屋かな(愛知県)、池田夏美(京都府)、笹川由美子(兵庫県)、足立友美(鳥取県)、奥山真未(岡山県)、土屋侑子(山口県)、村上智美(徳島県)、川上明美(高知県)、白石美香(福岡県)、鬼塚美美子(佐賀県)、大神留美(熊本県)、藤原高子(大分県) 以上21名)

- トレーラ部門**
- 栗原利勝(北海道)、黒澤宏次(宮城県、木村王久(山形県)、半澤幸一(福島県)、篠原順一(茨城県)、藤田明雄(群馬県)、坂口和夫(埼玉県)、河邊勲(千葉県、原武(東京都、江成正彦(神奈川県、齋藤克治(新潟県)、松井九純(富山県)、中下勇治(石川県)、岐卓郎、望月重宏(静岡県)、家田有善(愛知県)、松本英治(滋賀県)、山添孝治(京都府)、田中啓一(大阪府)、稲垣隆志(兵庫県)、石崎圭亮(奈良県)、木田佳孝(和歌山県)、米原宏(鳥取県)、椋木修礼(山口県)、生中勝行(愛媛県)、尾島康晴(福岡県)、北村健太郎(佐賀県)、木本亮(長崎県)、大童正男(熊本県)、工藤文則(大分県)、上川修之(宮城県、神谷強(沖縄県) 以上32名)

- 11トン部門**
- 岡部隆男(北海道、石田伸也(青森県、鈴木壮(岩手県)、吉田峰之(宮城県、坂本好太(秋田県)、齋藤隆(福島県)、田村雄介(茨城県、岩崎美文(栃木県)、小林芳夫(群馬県)、能勢幸佑(埼玉県)、若林康之(千葉県、大須賀浩一(東京都)、小林英樹(神奈川県)、加藤充祥(山梨県)、村山俊一(新潟県)、油井孝夫(長野県)、入部博幸(富山県)、岡本直樹(石川県)、三上良平(福井県)、永治昌隆(岐阜県)、廣野博文(静岡県)、梅本敦史(愛知県)、楠田敦士(三重県、今村崇之(滋賀県)、岡田悟(京都府)、吉田順一(大阪府)、松下博樹(兵庫県)、堀川順弘(奈良県)、和歌山治(和歌山県)、安達透(鳥取県)、藤井国久(岡山県)、木谷英介(広島県)、岩本寛之(山口県)、村井克年(香川県)、和田徳雄(愛媛県)、川村岳弘(高知県)、西原裕(福岡県)、吉田昭(佐賀県)、鳥島満善(長崎県)、新堀聡吾(熊本県)、山際淳一(大分県)、日野登司泰(宮城県)、二田和文(鹿児島県)、宮里泰史(沖縄県) 以上44名)

出場した選手の皆さん

(敬称略)